

ドル円、膠着を脱するか？

ドル円相場は足元で120円台後半とやや上昇しているが、依然膠着状態を脱していない。最近発表された4月分の米経済指標には冴えないものも多く、米利上げ観測が盛り上がり、ドル高のエネルギーが不足している。日本側にも目下大きな円安エンジンは見当たらない。

今後も米経済が鍵となるが、底流にある雇用・所得環境は悪くないことから遠くから持ち直すと見ている。米利上げが再び意識されるようになることで、今後3か月の方向性は円安ドル高との見通しを維持する。ただし、今回の利上げペースは緩やかと予想されるほか、急ピッチのドル高は、米経済や企業収益への懸念を生むことで、それ自体がドル売り材料になるため正当化されない。3ヵ月後は現状比で小幅のドル高に留まりそうだ。なお、日銀の追加緩和については、米国議会を刺激するリスクがあるためTPP交渉が山場を越えるまでは難しい。交渉が遅れているため、従来7月から10月へと予想を変更する。

ユーロ円相場は、ユーロ圏のデフレ懸念後退に伴うユーロの買戻しにより、4月終盤以降大幅なユーロ高となったが、行き過ぎ感がある。今後は欧州金利が落ち着き、低下に向かうと予想されるため、再びややユーロ安方向に動くと思われる。

長期金利は海外金利に揺さ振られ、方向感を欠く展開が続いている。今後は米金利の上昇が金利上昇圧力となるが、日銀が買い入れを続ける中で債券需給は基本的にタイトであり、金利上昇局面では投資家の買いが入りやすい。3ヵ月後は現状比横ばい圏内と見ている。

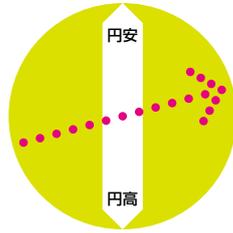


シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp
 1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同融資部門財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク
 The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

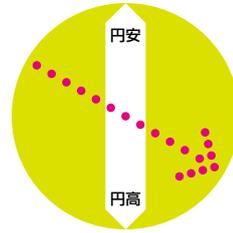


Market Karte

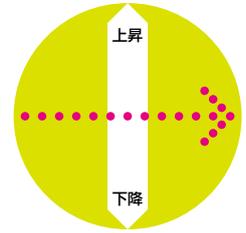
June 2015



ドル円・3ヵ月後の見通し



ユーロ円・3ヵ月後の見通し



長期金利・3ヵ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

